

2010年5月14日(金) 18:30~19:30

【出席者】

代表取締役社長 土屋 裕弘

代表取締役 副社長執行役員 下宿 邦彦

取締役常務執行役員 営業本部長 柳澤 憲一

取締役執行役員 製品戦略部長 三津家 正之

取締役執行役員 経営企画部長 子林 孝司

執行役員 開発本部長 村上 誠一

【2009年度決算および2010年度業績予想】

行政処分の影響

Q/メドウェイに関する一連の問題による業績への影響は、どのようにみているのか？

A/当社としては、医療機関など関係者のご理解を得て、業績への影響を最小限にしたいと考えているが、5月12日から営業活動を再開したばかりであり、第1四半期の状況をみると業績への影響は予想できない。全体の影響を把握するまでに、時間を要することをご理解いただきたい。

Q/現時点までに何か具体的な影響は出ているのか？

A/業務停止期間中は、一切営業活動を行っていないため、情報収集が全くできていない状況である。業務再開後2日しか経過しておらず、現時点で当社に対する若干のペナルティが発生していることは把握している。

2010年度業績予想

Q/アンプラーグの2009年度第4四半期(1~3月)の売上が弱かったが、薬価改定前の買い控えの影響があったのか？ また、今後行政処分に係るペナルティにより、後発品への切替えが進むことが懸念されるが、そのような兆候はあるのか？

A/昨年11月に後発品が発売されたのは事実であり、3月末までに本剤が後発品の影響を受けたことは否定できない。行政処分による影響については、昨日までの状況を見ている限りでは、特に影響を受けているとは思わないが、現時点では、情報を十分収集できないこともあり、今後、情報の把握に努めていきたい。

後発品対策については、当社の本剤に対するプロモーションは極めて高く評価されており、4月から本来の営業活動ができていれば、十分な対策を行えたと考えている。当社は、既にいくつかの対策を施しているし、今後も対策を施していくので、業務再開後の活動の中で

十分に対応できるものと考えている。

Q／2010年度の販売費および一般管理費の見通しを教えてください。

A／2009年度と比べると約160億円程度減少する見込みである。減少する要因としては、2009年度に発生したMP-424の契約見直しに伴う約100億円の支払いがなくなることやコスト削減の徹底により経費、要員適正化で約50億円のシナジー効果を見込んでいる。さらに2009年度の年金運用が順調であったため、退職給付費用(数理計算上の差異の償却)が、約10億円減少する見込みである。

Q／2010年度の研究開発費の見通しを教えてください。

A／2010年度の研究開発費は、例年並みの水準に戻ると考えている。2009年度の研究開発費には、MP-424の契約見直しに伴う約100億円の支払いが含まれている。2010年度は、この一時的な費用が減少するのに加えて、シナジー効果による減少を若干見込んでいる。

Q／2010年度の特別損失の見通しを教えてください。

A／当社は継続的に構造改革を進めているので、そのための費用と早期退職に伴う特別退職金を見込んでいる。また、2009年度に計上したメドウェイ事業休止による事業休止関連損失が、2010年度も引き続き発生すると考えている。合わせると、2009年度よりは若干下回る規模を織り込んでいることになる。

#### 【開発パイプライン】

##### ロフルミラスト

Q／ロフルミラストの状況について教えてください。

A／4月の米国FDAの諮問委員会では承認に至らなかったが、これは追加データを求められたものと考えられる。一方、欧州の審査庁 EMEA では承認を勧告するといった発表があった。現在、欧州での推奨内容(増悪を繰り返す慢性気管支炎を伴う重症 COPD 成人患者における維持療法、気管支拡張剤のアドオンとして推奨されている)をどのように、国内で再現できるか、また、同様の承認が日本で得られた場合の予想売上高につき、分析を進めている。

##### MP-424

Q／欧米の臨床試験は、テラプレビル(MP-424)と併用するペグインターフェロン、リバビリンの組み合わせについて、ペグイントロンとレベトール、ペガシスとコペガスの2種類の併用試験を実施しているが、日本ではペグイントロンとレベトールとの併用試験のみである。日本で承認された場合、ペガシス、コペガスとの併用はできないのか？ 今後、ペガシスとコ

ベガスとの併用試験を実施する計画はあるか？

A／日本ではペグイントロンが多く使われており、カバー率も高いので、市場で優位であると考えている。承認後の他の組み合わせでの使用については、申請時に当局と相談していくことになる。ただし、現時点では、新たな組み合わせでの試験は計画していない。

Q／MP-424 の中国での開発計画はどのような状況か？ 自社で開発するのか？

A／中国では自社で開発できる体制があり、日本での承認を取得した後、中国において最速での承認取得を目指すという方針に変更はない。

以上